

第7次舞鶴市総合計画前期実行計画の点検評価に係る各委員の意見

【総務消防委員会】

点 検 評 価 項 目		各 委 員 の 意 見
1 ・ 2 ・ 2	防災・減災対策の強化 4(3)① 自主防災組織等の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織未結成の町内会への文書配布や出前講座の開催などにより、新規設立が5件あり、取組の成果として評価できる。 自主防災組織未結成の町内会等への支援が必要。 自主防災組織の育成については、各組織の実情を踏まえてさらなる取組が必要。 自主防災のリーダー（防災士等）の養成が必要。 この取組に対する予算が不足している。
	4(3)② 地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> タイムラインについては、ハードルが高いという意見があることから、地域の実情に応じたものを作成できるような取組とする必要がある。 タイムライン作成のため、積極的に自治会に働きかけるさらなる取組が必要。 町内会の組織運営だけでも苦勞されているところが多く、財政面も含めた行政のさらなる支援が必要。 努力はされているが、地区防災計画策定の目標値10件に対して、実績値1件は低すぎる。さらなる取組が必要。 住民意識の醸成には、まず自主防災組織の結成が推進されないと先に進まない。
2 ・ 1 ・ 1	市民と共に進めるまちづくり 2(1)① 市民や企業、関係部署などと連携し、戦略的にまちのブランディングを実施	<ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーやロゴマークについての周知とさらなる市民参加が求められる。 キャッチコピーやロゴマークは、全庁を挙げた取組となるよう期待する。 市民や関係機関と連携して協議を重ね、市民アンケートによるニーズ把握を行うなど、今後進むべき方向性を提示できたことを評価する。
	2(2)① さまざまな発信ツールでの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 現在の発信ツールでも情報が届かない市民を想定し、配慮することが必要。 様々な情報発信ツールを活用している中でも、数値目標を掲げているメール配信サービスの登録者数は、目標値を達成していることは評価できる。
	2(2)② ビッグデータを活用した効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> AIチャットボットの導入は、市民の利便性の向上に繋がっている。 AIチャットボットに蓄積された情報を分析し、より使いやすくなるよう創意工夫した取組に期待する。 AIチャットボットの回答には、あいまいな点もあるため、継続的な改善が必要。

第7次舞鶴市総合計画前期実行計画の点検評価に係る各委員の意見

【総務消防委員会】

点 検 評 価 項 目		各 委 員 の 意 見
2 ・ 一 ・ 2	持続可能なまちづくり	
	3(1)① 時代に応じた最新技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> 先進的に取り組み、大きな成果をあげていることを高く評価するが、今後は、平準化していくため、効果が見込める事務の洗い出しを進められたい。 AI-OCRとRPAの導入によるが認められる。今後も積極的に推進されたい。 対面サービスなどの「人にしかできない仕事」の側面の整理が、デジタル化の推進とあわせて必要である。
	3(1)② 行政手続きの利便性向上と業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードのさらなる普及とあわせて取り組む必要がある。 コンビニ交付については、運用開始から短期間ながら利用もされており、市民への周知が進めば、さらに利用者が多くなると考えられる。 個人情報の利活用と同時に、個人情報保護について、国・府と連携してさらに強化する必要がある。地方から国へ強く意見を言うべき。